若手技術者と熟練技術者の交流会　開催報告
第４回 株式会社 yasuhirokaneda STRUCTURE 金田泰裕氏

（一社）日本建築構造技術者協会
若手部会　築舘 明智（㈱松田平田設計）

1. はじめに

JSCA 若手部会では、若手技術者の技術力向上と成長のために、講演会や見学会等のイベントや組織を超えた技術者同士の交流会を実施する活動を行っている。第一線で活躍されている熟練技術者の方をお招きし、ご講演並びに講演者と参加した若手技術者が直接会話して交流出来るイベントを企画した。熟練技術者との対話によって強い刺激を受けると共に、組織を超えた横の繋がりを作ることで技術者個人だけではなく業界全体を活性化させるような貴重な機会になればと考えている。2026 年 9 月 20 日（日）に第４回目として開催した。

2. 交流会当日

今回はyasuhirokaneda STRUCTURE の金田泰裕さんをお迎えし、若手技術者に向けてご講演頂くと共に、飲食を伴いながらカジュアルな雰囲気の中で色々なお話を伺った。会場は今回、㈱類設計室さんにご協力いただき、東京本社「工房Soil」をお借りした。

講演の序盤は、金田さんのこれまでの歩みと、国内外での実務経験を通して培われた構造設計に対する考え方についてお話し頂いた。海外での活動を通じ、地域ごとに異なる法規や材料、施工技術などを単なる制約ではなく、その土地ならではの建築や構造を生み出す条件として捉えてきた経験をご紹介いただいた。

また、構造設計者の役割について、与えられた建築案を成立させるだけではなく、建築家との対話を通してプロジェクトの「骨格・大枠」を捉え、その本質を共有しながら構造計画を組み立てていくことの重要性を語られた。細部の解決に入る前に、建築全体を支える骨格や方向性を見極め、構造の視点から建築に新たな価値を与えていくという姿勢は、構造設計者の職能を改めて考える機会となった。

交流会の後半からは、参加した若手技術者からの質問に回答いただきながら交流する形式で進行した。建築家とのコミュニケーションや構造計画、海外と日本の構造設計の違い、若手時代の設計への向き合い方など幅広い質問が寄せられ、率直な意見交換が行われた。構造設計を単なる技術的な問題解決にとどめず、建築そのものを考える行為として捉える金田さんの姿勢は、参加者にとって強い刺激となった。

3. まとめ

今回の交流会の参加者は、15 名（正会員９名（若手部会除く）、賛助会員１名、非会員５名）となった。講演では、国内外で培われた構造設計に対する考え方や、建築家との対話を通して建築の可能性を広げる構造設計者の役割についてお話しいただいた。また、耐震要素を日常の建築空間の中でどのように存在させるかという視点や、構造を通して建築に新たな価値を与えるという考え方は、参加した若手技術者にとって大きな刺激となった。後半の質疑応答も含め、構造設計者としての姿勢を改めて考える貴重な機会となった。JSCA 若手部会では今後もこのような活動を積極的に行い、構造設計業界のつながりをつくりながら、同時に切磋琢磨できる場を提供できればと考えている。次回も多くの方に参加いただきたい。

会場の様子